

石見銀山遺跡 ニューズ

Newsletter of the Iwami-Ginzan Silver Mine Site

JUL.2001 NO.1

平成13年7月2日発行 第1号

島根県・大田市・仁摩町・温泉津町教育委員会



>> Contents

page	
2	ごあいさつ 島根県知事 澄田信義・大田市長 熊谷國彦
3	発刊にあたって 世界遺産登録推進室長 山根正巳
4	平成13年度 石見銀山遺跡関連事業の概要 ほか
5	平成12年度 調査活動日誌抄
6	第12回 石見銀山遺跡発掘調査委員会、開催される
6	町並みを歩く(1)～修理・修景をすすめる～
8	遺跡分布調査から～銀山柵内に新たな山城跡発見～
9	発掘調査の記録(1)～昭和58年度調査「代官所跡地区」～
10	資料紹介(1)石銀藤田地区出土の陶器片について
11	(2)大社町・神光寺旧跡出土の一石宝篋印塔
12	催し物・刊行物情報

【オリテリウス／テイセラ日本図(1595年)】
この地図はポルトガル人宣教師ルイス・テイセラが作成し、16世紀後期にヨロップで出版された地図帳「地球の舞台」に所収されたもので、本資料は銅版印刷に手彩を施されている。「Iwami」(石見)の上部に「Argenti fodinae」(銀鉱山)の記載があり、また石見銀山を示しているものと思われる。島根県所蔵。

世界遺産候補から世界遺産へ

島根県知事 澄田 信義



このたび「石見銀山遺跡ニュース」を刊行する運びとなりました。石見銀山遺跡につきましては、世界遺産登録を目指し大田市、温泉津町、仁摩町との協力のもと、平成8年から総合調査をはじめとする諸事業を実施してまいりましたが、昨年11月に開かれた国の文化財保護審議会において、「石見銀山遺跡」を世界遺産暫定リストに登載することが了承され、日本国政府からユネスコ世界遺産センターを通じて世界遺産委員会に提出されました。

これは、石見銀山遺跡の文化財としての価値が認められたことはもとより、地域の住民の皆様をはじめ、県民が一体となって遺跡の保全・活用・整備に努めてきたことに対する評価でもあると考えております。

島根県におきましては、今年度から整備基本計画に基づき、サインの整備や、更なる総合調査を実施する予定であり、それに対応するため、新しく世界遺産登録推進室を設けるなど実施体制も整えたところであります。

今後、この石見銀山遺跡が世界遺産に登録されるまで、さらに広く情報発信を行っていく必要があると考えます。本誌が石見銀山遺跡に関する情報提供の窓口となり、世界遺産登録に向けての一助となることを祈念して、発刊のごあいさつといたします。

未来に引き継ぐ石見銀山

大田市長 熊谷 國彦



先人が私たちに遺してくれた石見銀山。世界に誇れる遺跡並びに歴史というかけがえのない文化的資産を21世紀を担う子や孫にしっかりと引き継いでいくことは大田市にとっても非常に重要な課題であります。

そうした中でこれまでの県・市・町の共同調査の成果に立脚し、さらに情報を発信するために「石見銀山遺跡ニュース」を発行されることは今後の世界遺産登録への着実な歩みの一歩といえます。

大田市ではこの4月から総務部に専任の石見銀山課を設置し、世界遺産登録の推進体制を整えらると共に、関連する諸事業の調整と推進並びに地元対応の窓口としたところです。

今後、重文・旧熊谷家の保存活用を始め調査と共に整備も本格化して参りますし、また観光の面でも「世界と対話する文化観光地」と位置づけ、世界遺産にふさわしい地域づくりにも取り組みたいと考えております。

このニュースが石見銀山に関心を持たれた多くの方々を目にとまり、併せて読者各位のいっそうの御指導・ご協力をお願いしてごあいさつといたします。

石見銀山遺跡をよく知るために

世界遺産登録推進室長 山根 正巳

昨年11月に石見銀山遺跡が世界遺産の暫定リストに登載されることが報道されました。そのあとしばらくの間に、よその県から「どのような手続きをすると世界遺産の暫定リストに登載してもらえるのか」という問い合わせが何件ありました。

暫定リストは、各国の政府が今後5年から10年の間に世界遺産に推薦しようとする物件をリストにしたもので、ユネスコの世界遺産委員会に提出されます。日本からはこれまでに11件の文化遺産が暫定リストに登載され、9件が世界文化遺産に登録されています（文末「我が国の世界遺産の状況」を参照下さい）。このたびこの暫定リストに「石見銀山遺跡」、「平泉の文化遺産（岩手県）」、「紀伊山地の霊場と参詣道（三重県、奈良県、和歌山県）」の3件が追加されたわけです。

石見銀山遺跡が世界遺産の暫定リストに登載されることになったのは、これまでの総合調査によって遺跡の価値が明らかになってきたことや国史跡指定申請など遺跡の保存に地元が一致して取り組んでいることが認められたと考えています。

そうは言っても、石見銀山遺跡が世界遺産としての価値を持っていると誰が最初に考えたのか、遺跡の価値とはどんなことか、どのように価値を認めてもらったか、どんな調査が行われているのか、といった疑問が残ります。

また、一見したとき国内の世界遺産に比べ見劣りがするように思うがこのままで世界遺産になるのだろうか、では世界遺産に登録のために何をしなければならないのだろうか、世界遺産を生かした地域づくりができるだろうか、といったことを知りたいと思う方もあるでしょう。こうしたことを理解してもらったり、一緒に考えてもらう手種にしてもらえるよう、できるだけ多くの人に話題を提供したいと思っています。そして、石見銀山遺跡について新たな発見があり

興味が高まって、遺跡の保存や整備も一緒に考えていただけるようになれば大変ありがたいです。こうした気運が多くの県民の皆さんに高まっていくことが、世界遺産登録への最も大事なことなのだと思います。

石見銀山遺跡の情報はインターネットホームページ (<http://www2.pref.shimane.jp/ginzan/>) や各種の印刷物、講演会やシンポジウムなどの催しでも見聞していただくことができます。しかし、テレビの人気番組でも10%前後の人しか視聴していないのですから、もっと多くの人たちにタイムリーな出来事を伝えようとするれば、それこそ「手を変え品を変えて」やる必要があるでしょう。

このリーフレットにはもっとも調査現場に近い情報を載せていくことになると考えています。気軽に見ていただいて、ネットワークが広がっていくことを願っております。

我が国の世界遺産		
名 称	暫定リスト 作成年	世界遺産 登録年
法隆寺地域の仏教建造物	平成4	平成5
姫路城	平成4	平成5
古都京都の文化財(京都市、宇治市、大津市)	平成4	平成6
白川郷・五箇山の合掌造り集落	平成4	平成7
巖島神社	平成4	平成8
原爆ドーム	平成7	平成8
古都奈良の文化財	平成4	平成10
日光の社寺	平成4	平成11
琉球王国のグスク及び関連遺産群	平成4	平成12

注(1)「琉球王国のグスク及び関連遺産群」は、平成12年11月27日から12月2日までオーストラリアで開催された第24回世界遺産委員会で登録が決定された。
 (2)上表の世界遺産のほか、「白山山地」と「屋久島」が自然遺産として世界遺産に登録されている。
 (3)上表のほか、「彦根城」と「古都鎌倉の寺院・神社ほか」が平成4年に、「石見銀山遺跡」、「平泉の文化遺産」、「紀伊山地の霊場と参詣道」が平成12年に暫定リストに登載されている。

平成13年度 石見銀山遺跡関連事業の概要 (県事業関連)

昨年11月の世界遺産暫定リスト登録決定を受けて、世界遺産にふさわしい整備を行うなど、世界遺産を目指した事業展開を図ります。

>> 1. 総合調査事業

石見銀山遺跡の全貌をさらに明らかにするために、引き続き次の調査を行います。

- ①遺跡発掘調査、②古文書・文献調査、③石造物調査、④科学調査、⑤間歩調査、⑥街道調査

>> 2. 整備関係事業

整備基本計画を策定し、それに基づき整備を行います。具体的な保存整備事業としては大森地区にある重要文化財「旧熊谷家住宅」の保存修理事業（5カ年計画）に着手します。また、活用整備事業ではサイン整備の基本計画・実施設計を立て、案内板・説明板などを設置します。

>> 3. 情報発信事業

「世界遺産候補、石見銀山遺跡」シンポジウムを開催し、広く県民に石見銀山遺跡の素晴らしさや保存・活用の方策について情報発信していきます。

平成13年度 石見銀山遺跡調査業務と委員会等

>> 島根県

○世界遺産登録推進室（教育庁文化財課内）
〒690-8502 松江市殿町1
TEL.0852-22-5649、FAX.0852-22-5794
http://www2.pref.shimane.jp/ginzan/
E-mail:bunkazai@pref.shimane.jp
室長 — 室員4（事務職1、専門職2、嘱託1）

>> 大田市

○総務部石見銀山課（市長部局）
〒694-0064 大田市大田町大田口1111
TEL.0854-82-1600（内線338）、FAX.0854-84-9156
http://ohda.iwamigin.or.jp/
E-mail:ohda@iwami.or.jp
課長 — 銀山係長（課長事務取扱） — 主任2、主事1、補助員1
— 世界遺産係長 — 主任2、補助員1
※主として遺跡整備や伝健地区、世界遺産関連の総合調整などの業務を担当します。

○文化振興室（教育委員会）
TEL.0854-82-1600（内線326）、FAX.0854-82-5395

E-mail:o-bunka@iwamigin.or.jp
室長（社会教育課長兼務）
係長 — 主任技師1 — 発掘調査補助員2、補助員2
※主として発掘調査関係を担当します。

○石見銀山遺跡発掘調査事務所（県・市事務所）
〒694-0305 大田市大森町イ826
TEL.0854-89-0899、FAX.0854-89-0902

>> 仁摩町

〒699-2301 瀬摩郡仁摩町大字仁万町537-1
E-mail:syakai-c@nima-cho.ne.jp

○教育委員会社会教育係

TEL.0854-88-2113、FAX.0854-88-4276
係長 — 主任主事

>> 温泉津町

〒699-2598 瀬摩郡温泉津町温泉津大字小浜イ486

○教育委員会社会教育係

TEL.0855-65-2177、FAX.0855-65-1073
係長 — 主事

>> 委員会・その他

○石見銀山遺跡発掘調査委員会
（委員10名、事務局・県文化財課）

○石見銀山遺跡整備推進本部

（県庁内関係次長および1市2町助役ほか12名で構成、事務局・県文化財課、同幹事は県庁内関係課長ほか24名で構成）

○石見銀山資料館

〒694-0305 大田市大森町ノ51-1
TEL.0854-89-0846、FAX.0854-89-0159
http://www.joho-shimane.or.jp/cc/silver/
E-mail:silver@joho-shimane.or.jp



▲仙ノ山山頂付近の石銀地区で出土した江戸時代の銀の精錬所跡

石見銀山遺跡調査活動日誌抄

平成12年4月～平成13年3月

- | | | | |
|----------|--|----------|---|
| 4/4 | 上野利治家文書調査 | 12/7 | 石見銀山遺跡発掘調査指導会 |
| 5/10 | 第10回石見銀山遺跡発掘調査委員会
発掘・科学・石造物・文献各調査部会 | 12/14～19 | Pacificchem2000（環太平洋化学会）
科学調査共同発表（ハワイ） |
| 5/24 | 上野武三家・城上神社文書調査 | 12/21～24 | 大森町熊谷家文書調査 |
| 5/29～6/2 | 石造物分布調査（清水谷地区） | | |
| 6/6～7 | 上野利治家文書調査 | | |
| 6/14～25 | インド・インドネシア文献調査 | | |
| 7/2・3 | 石見銀山歴史文献研究会 | | |
| 7/6・7 | 科学調査部会 | | |
| 7/18～22 | 清水寺・安原家ほか文書調査 | | |
| 7/27～29 | 石見銀山遺跡発掘調査指導会 | | |
| 8/3～5 | 上野武三家・城上神社文書調査 | | |
| 8/7～8 | 石見銀山遺跡発掘調査指導会 | | |
| 8/10 | 石見銀山遺跡発掘調査指導 | | |
| 8/21～9/2 | 石造物悉皆調査（龍昌寺跡） | | |



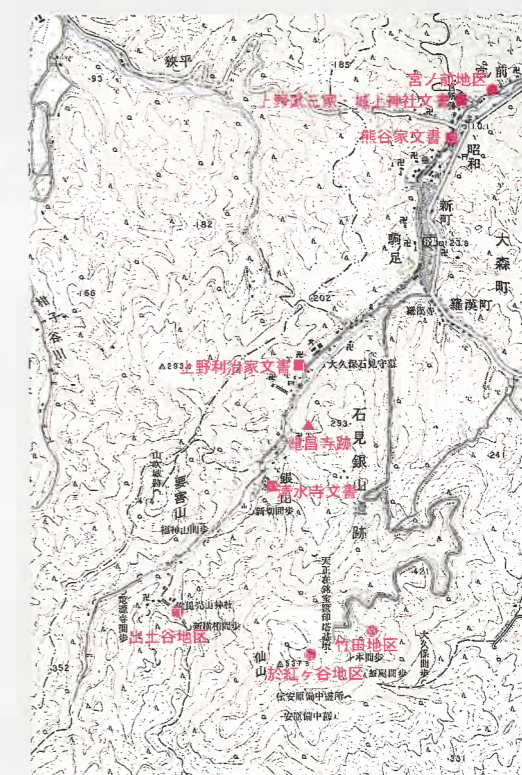
大森町熊谷家文書の調査。



龍昌寺跡にて、石造物悉皆の調査。

- | | |
|----------|-------------------|
| 8/21～23 | 京都大学所蔵熊谷家文書調査 |
| 8/28～31 | 大森町熊谷家文書調査 |
| 9/1 | 石造物調査検討会 |
| 9/13～14 | 第29回大規模遺跡調査連絡協議会 |
| 9/29～30 | 第2回科学調査研究会 |
| 10/16～18 | 石見銀山遺跡発掘調査指導会 |
| 10/26 | 石見銀山遺跡発掘調査指導会 |
| 11/2 | 第11回石見銀山遺跡発掘調査委員会 |
| 11/11 | 石見銀山遺跡発掘調査現地説明会 |
| 11/13 | 石見銀山遺跡発掘調査指導会 |

- | | |
|---------|---------------|
| 12/22 | 石見銀山遺跡発掘調査指導会 |
| 1/24 | 石見銀山遺跡発掘調査指導 |
| 3/5～8 | 大森町羅漢寺中央窟調査 |
| 3/12～16 | 石造物補足調査（龍昌寺跡） |
| 3/28～30 | 大森町熊谷家文書調査 |
| 3/29～30 | 第2回街道調査（仁摩町） |



●は発掘調査、■は文献調査、▲は石造物調査地点。文献調査はこのほか県内石見町や国外でも調査を行っています。

平成12年度に行われた石見銀山遺跡調査

第12回石見銀山遺跡発掘調査委員会、開催される(5/9,10)

当委員会は「石見銀山遺跡の調査を推進するため、その具体的な方針と同遺跡の保存整備を図る上での基本的な方策を検討すること」を目的に、島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教委が共同で設置したものです。平成8年度からスタートし、文化庁を来賓に招いて毎年春と秋の2回ずつ開催され、この春で12回目を迎えました。

今回の委員会では、前年度の総合調査の成果について各部門から報告が行われたあと、今年度の取り組みを話し合い、石見銀山遺跡関連事業予算と整備基本構想、総合調査計画について事務局および各調査部門担当者が説明を行い、了承を得ました。翌日は今年度の発掘調査予定地である竹田・於紅ヶ谷地区などの現地視察を行い、特に今回は委員会として初めて、安全が確認された大久保間歩へ入坑し内部を視察しました。

なお、10名で構成される調査委員会のメンバーは次の方々です。

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 委員長 田中 琢 (前奈良国立文化財研究所長) | 委員 田中圭一 (元筑波大学教授) |
| 委員 田中義昭 (元島根大学法文学部教授) | 委員 脇田晴子 (滋賀県立大学教授) |
| 委員 藤岡大拙 (島根県立女子短期大学長) | 委員 畠本晴隆 (同和鉱業(株)労働・総務・秘書部門部長) |
| 委員 熊谷國彦 (島根県大田市長) | 委員 安田増憲 (島根県温泉津町長) |
| 委員 池亀 貴 (島根県仁摩町長) | 委員 井上勝博 (島根県教育委員会教育次長) |

当日はこのほかに文化庁から白杵勲文化財調査官、石造物調査員池上悟 (立正大学助教授)、科学調査員 村上隆 (奈良文化財研究所)、文献調査団事務局 岩屋さおり (大阪大学院生) の各氏が参加し、県市町の関係職員合わせて30名ほどの会議となりました。



町並みを歩く ① ～修理・修景をすすめる～

昭和62年度から平成13年度の間、大森銀山地区で保存修理あるいは修景した建物は120棟を超えます。昨年度は13棟の修理修景をおこない、昔どおりの姿に、あるいは外観を景観にあわせるよう工夫が施されました。

町並みを構成する伝統的建造物には個々に歴史と特徴が備わっており、それを消してしまわないよう施工前から調査をおこないます。平成12年度施工の建物の場合、こうした調査成果から明治維新をむかえて武家住宅が公的施設としてリニューアルされた建物、蔀戸(しとみど)と呼ばれる建具が立て付けられていた建物、撮影時期の異なる古写真2枚と棟札によって大正期の改造前後の外観を確認できた建物など、さまざまな歴史が浮き彫りになりました。これらは実測調査、解体中に見

つかった痕跡、居住者の聞き取り調査、家相図や板図といった史料の確認などが決め手となります。

当然のことですが、修理・修景は施主の理解と協力が最大の決め手です。外観を町並みにあわせる、あるいは復元するといった保存事業には補助金がありますが、その経費の少なくとも2割から4割の自己負担を求められ、竣工後は日常の手入れが生じます。ここに住む人々は自らの手で伝統的な建物を維持し、必要に応じて修理や修景をおこない、そしてまた古き良き建物の中で日常の暮らしを営んでいます。住み手の日常は歴史的町並みの維持であるともいえ、こうした生活を続けていくことを住み手が理解し、さらに互いに協力しなければ町並み保存をすすめることは難しいのです。大森町の人たちはこのことを続けてきました。保存の一步を踏み出すことは大変勇気が必要としました。しかし、歩みだしてみるとそれは年を追うごとに力強くなり、大森らしい歩みになっています。(林)

〈修理前〉



小浪家住宅

明治39年(1906)に建築されたと伝えられています。棟札に記されていた大正4年(1915)は2階建てへの増築時期と考えられます。1階正面を店舗当時に復元しました。この住宅が竣工したことで町並み交流センター周辺の建物修理が終わりました。

〈修理後〉



内田家住宅

外観を3軒長屋に復元。実際は1軒の住宅です。出入り口は1カ所なので他は外観構成のため配置されています。また、解体中に見つかった蔀戸(しとみど)の痕跡をもとに正面右の建具を復元しました。



福田家住宅

文久2年(1862)の家相図によって武家住宅であったことがわかりました。明治以降、税務署等に転用されることになって大幅な改造がおこなわれており、建築当初に戻すことは困難でしたが、税務署時期の様子について地元の人から聞き取り、古写真によってその外観を確認、解体時に見つかった痕跡などを総合してその外観を取り戻すことができました。



柵内に新たな山城発見。

この山城跡は大田市大森町銀山にあり、平成12年度に実施した石造物の分布調査中に確認しました。

石見銀山は戦国時代に争奪戦が繰り返され、周辺には山吹城跡、矢滝城跡、矢管城跡など多くの山城が築かれています(1)。その中心である山吹城跡(標高414m)の対岸にあるのが、今回紹介する武田谷城跡です。

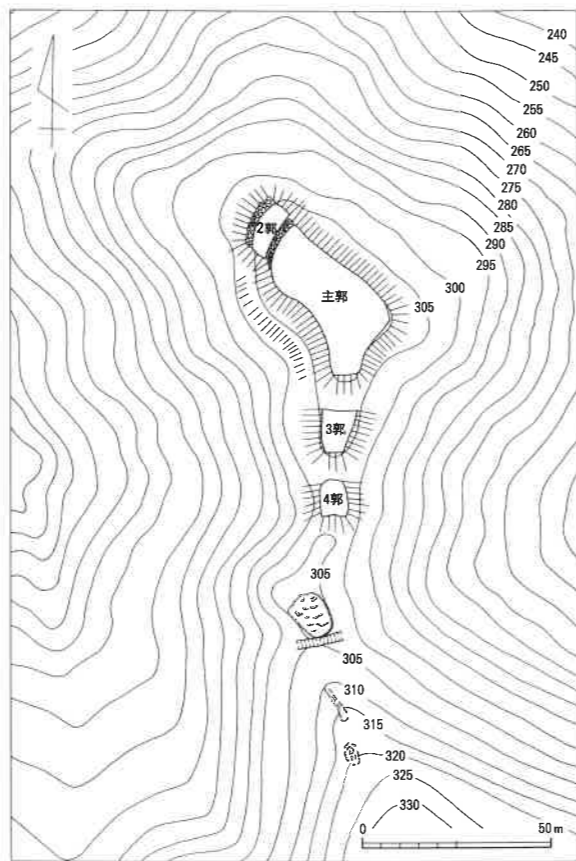
城跡は仙ノ山(標高538m)から北に向かう尾根上に位置し、矢滝城跡や大江高山を望むことが出来ます。尾根の両側は急斜面になり、「清水谷」や休谷から入り込む「ナメラ谷」が深い谷を作っています。周辺には銀山を管理する休役所や銀を納める御文庫、龍昌寺跡や清水寺などが存在し、上市場・魚店などの地名も残るなど銀山の中心地の一部であったと考えられます。

城跡は標高310m付近の平坦地にあり、比高差は約140mを測ります。石積み、郭で構成され、残存状況は良好です。郭は4つあり、郭の範囲は主郭で曲がっていますが全長は約60mです。標高313mに設けられた主郭はL字状の平面形で、幅約7~15m、長さ約45mを測ります。北西端(山吹城側)には石積みが施され、一部崩れています。規模は高さ約0.4m、幅約9mで、石は2~3段に積まれています。

主郭の北側には小さい2郭があります。規模は9×12mを測り、北西端には高さ0.6mの石積みがあります。石積みは幅約8.5mあり、1mほどの石材も使用されています。3郭は8×10mの方形を呈し、4郭は3郭とほぼ同じ規模で7×10mです。4郭から南側30mの地点に幅2mの堀切があります。堀切と4郭の間には岩



▲山城跡位置図 (S=1/25,000)



▲武田谷城跡縄張図 (S=1/2,000)

盤が露頭し、堀切から南側は急な登り坂になります。

2郭の北西側は尾根がY字状に分かれており、右側の尾根上には2郭から約120m地点に幅約2mで断面U字形を呈した堀切状の溝があります。山城跡に直接関係するかは不明です。

斜面は未調査で、堅堀の有無は不明です。遺物は2郭から端反の中国製白磁皿、主郭北端から肥前系磁器、その他に肥前系陶器や青花皿が採集されています。(守岡)

注(1)鳥根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会『石見銀山遺跡総合調査報告書 平成5年度~10年度第3冊』平成11年



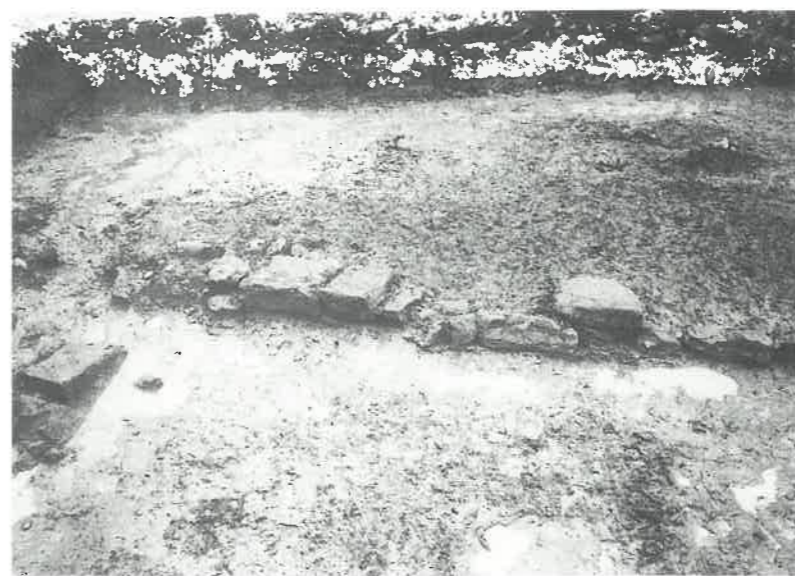
▲石積みの残存状況

発掘調査の記録 1

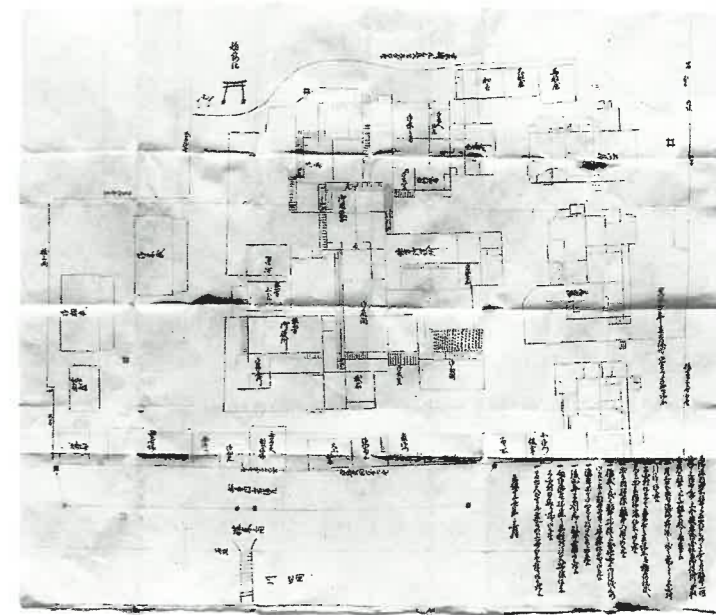
石見銀山遺跡の発掘調査が初めて着手されたのは、今から18年前の昭和58年(1983)のことでした。石見銀山の鉱山遺跡とその歴史に関わる遺跡群が国史跡に指定されたのが昭和44年(1969)であり、それから十数年の歳月を経て、遺跡の内容を確認するために地下遺構の考古学的な発掘調査が行われることになりました。

石見銀山遺跡という大規模な中近世の鉱山遺跡を解明するために、この時に発掘調査によるアプローチが計画され実施されたことは、暗中模索でありながらも、先見性のある試みであったと評価されるのではないのでしょうか。現在ではすっかり中世遺跡を代表する遺跡となった広島県の草戸千軒町遺跡や福井県の一乗谷遺跡などの中世遺跡の発掘調査が既に始まり多くの成果が収められていたことも、石見銀山発掘調査スタートの後押しすることになったようです。

昭和58年の調査は、史跡代官所跡の南に隣接する代官所跡地区で約40㎡、銀山への番所の一つであった蔵藏寺口番所跡地区で約30㎡の調査が行われました。このうち代官所跡地区の調査では、切石による石列と自然石による石列が検出され、切石のものは建物の基礎構造の一部と推定されます。出土した遺物の大半は陶磁器で、その年代はほとんど幕末以降ですが、その中にわずかに江戸時代初頭の唐津焼が数点含まれていました。わずかな面積と冬期の調査であったこと、遺構面と整地層の判断のむずかしさ、遺跡の年代・性格を示す資料の乏しさなど、厳しい条件の中で進められた調査であったと聞いています。



▲検出された切石による石列



▲天保12年(1841)作成の代官所絵図

しかしながら大きな意義として、石見銀山遺跡の解明のためには発掘調査が重要な手段となりうることを示唆したという点で、画期的な調査として調査研究史の中に位置付けられると思います。

調査の成果として次のことがあげられます。まず江戸時代の遺跡の存在が予測された地点で、発掘調査によって当該時期の遺構と遺物が確認されたことです。このことは現況が建物や耕作地であっても、下層には遺跡が存在する可能性を示すことになったといえます。次に整地層と出土遺物の問題です。調査地点では現代にいたるまで数度の整地が繰り返しておこなわれたことが観察され、層ごとに時期的なまとまりをもつ陶磁器が出土しました。整地層のもつ意味合いがクローズアップされたのもこの時からでした。

この調査で検出された遺構は、数年後発見された天保12年(1841)作成の代官所絵図から、「米蔵」あるいは「糶蔵」の遺構と推定されるようになりました。史跡代官所跡周辺ではその後も調査が行われ、平成10年(1998)年の代官所前の電線類地中化工事の際には、戦国時代に遡る側溝をもつ道路跡が最下層にあり、その上に江戸時代初めと推定される道が敷設されていることが明らかとなり、既存の道路に面して代官所が建設されたことなど新たな知見が得られています。

(遠藤)

昭和58年度の調査 代官所跡地区

資料紹介

1

石銀藤田地区出土の陶器片について
守岡正司

1 はじめに

石銀藤田地区は仙ノ山の山頂近く、標高466m付近に位置し、1996～98年度に調査により、幅2mの道跡に沿って建物跡が並んでいる状況が判明した(1)。建物内やその周辺からは間歩や炉跡、井戸跡など生活や銀製錬を含めた生産の跡が発見され、山の上に16世紀後半から18世紀の町並みがあったことが分かった。

また、陶磁器を始め下駄、砥石、石臼、硯、鉄鍋、分銅、古銭、製錬関連遺物なども出土した。陶磁器については備前、瀬戸美濃、肥前系など日本製品や中国や朝鮮半島産の製品が多数出土している。

2 華南三彩について

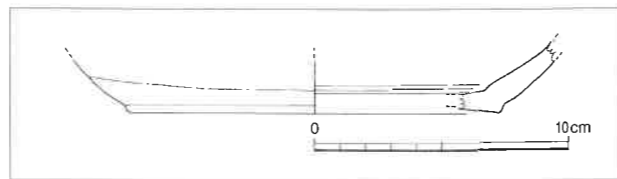
今回紹介する陶器片は一般に、交趾あるいは華南三彩といわれる陶器である。平成9(1997)年度の調査において藤田地区SF-Iから出土した。共存する遺物は不明で、共存遺物や遺構から時期を決めることはできない。



外面



内面



▲石銀藤田地区出土の陶器実測図 (S=1/3)

破片は鉢の底部と思われる、復元底径は14.6cmを測る。上げ底で、内面には底部から体部にかけて明瞭なアクセントがある。焼成は良好で、胎土はきめが細かく、黒色粒子を少し含む。軟質で、淡黄褐色を呈する。釉は緑色で、外面は底部から1cmほど上まで、内面は全面にかかる。断面には、漆が付着しており、補修して使用されていたと推測される。

3 まとめにかえて

鳥根県では華南三彩の出土は少なく、尼子氏や毛利氏などの城下町であった能義郡広瀬町富田川河床遺跡から水鳥水注が知られるのみである(2)。

他に、中国南部地域の製品と考えられている青釉(翡翠釉)小皿は7遺跡(3)、青釉碗は鹿足郡津和野町高田遺跡で出土している。益田市七尾城跡の陶磁器を分析した村上勇氏は、この種の皿は「戦国期の遺跡で少量ではあるが確認され」ており、「注意を引く遺物」と指摘している(4)。これらの遺跡は戦国期から江戸時代初めにかけての城館、城下町、町屋等の性格を持っていた場所と推定される。

今回紹介した陶器片の出土地は遺構的には道路に面した建物跡が検出され、日本産以外にも中国や朝鮮半島産の多量の陶磁器など(5)が出土品していることからその性格を裏付けられる一例と思われる。標高466mと高い山頂付近には多数のテラスが存在し、多数の人が活動し、その生活を支えていた物資も多量にあったと思われる。これらの一部である出土品を通して石見銀山遺跡を解明していくことが今後の課題である。

注(1)鳥根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会『石見銀山遺跡総合調査報告書 平成5年度～平成10年度』1999

(2)鳥根県教育委員会『富田川』1984他

(3)益田市七尾城跡、益田市上久々茂土居跡、美濃郡匹見町水田ノ上A遺跡、邑智郡川本町丸山城跡、鹿足郡津和野町喜時雨遺跡、大田市石見銀山遺跡植市場地区、能義郡広瀬町富田川河床遺跡・富田城跡

(4)村上勇『益田七尾城跡出土遺物の組成—陶磁器を中心に—』【七尾城跡・三宅御土居跡】1998

(5)遺物としては無文銭や下駄などが多量に出土している。

資料紹介

2

大社町神光寺旧跡の一石宝篋印塔
鳥谷芳雄

1 はじめに

文化13年(1816)成立の「銀山旧記」によると、16世紀前半のこととして石見銀山は博多の商人が日本海を杵築(大社)へ向かう途中発見し、出雲田儀の人で鷲銅山主とともに開発したとあって、銀山の歴史が西日本海沿岸地域を舞台に語られている。

石見銀山遺跡では墓塔・供養塔として中世末期から近世前期にかけて一石宝篋印塔や一石五輪塔の造立が盛行する。ここに紹介する資料は大社町立の考古資料収蔵庫に保管された一石宝篋印塔であるが、後述のように石見銀山遺跡のものと同注目される。

2 発見の経緯と神光寺旧跡

本資料は昭和39年(1964)2月、神光寺の旧跡とされる大社町修理免子観音付近から発見された。一石宝篋印塔は6基あり、掘り出されたとき家形の石龕内に収められていたという。この遺跡からは他に備前焼ほかの陶磁器類などが出土しており、本資料を含め遺物は一括して43年(1968)に町の指定文



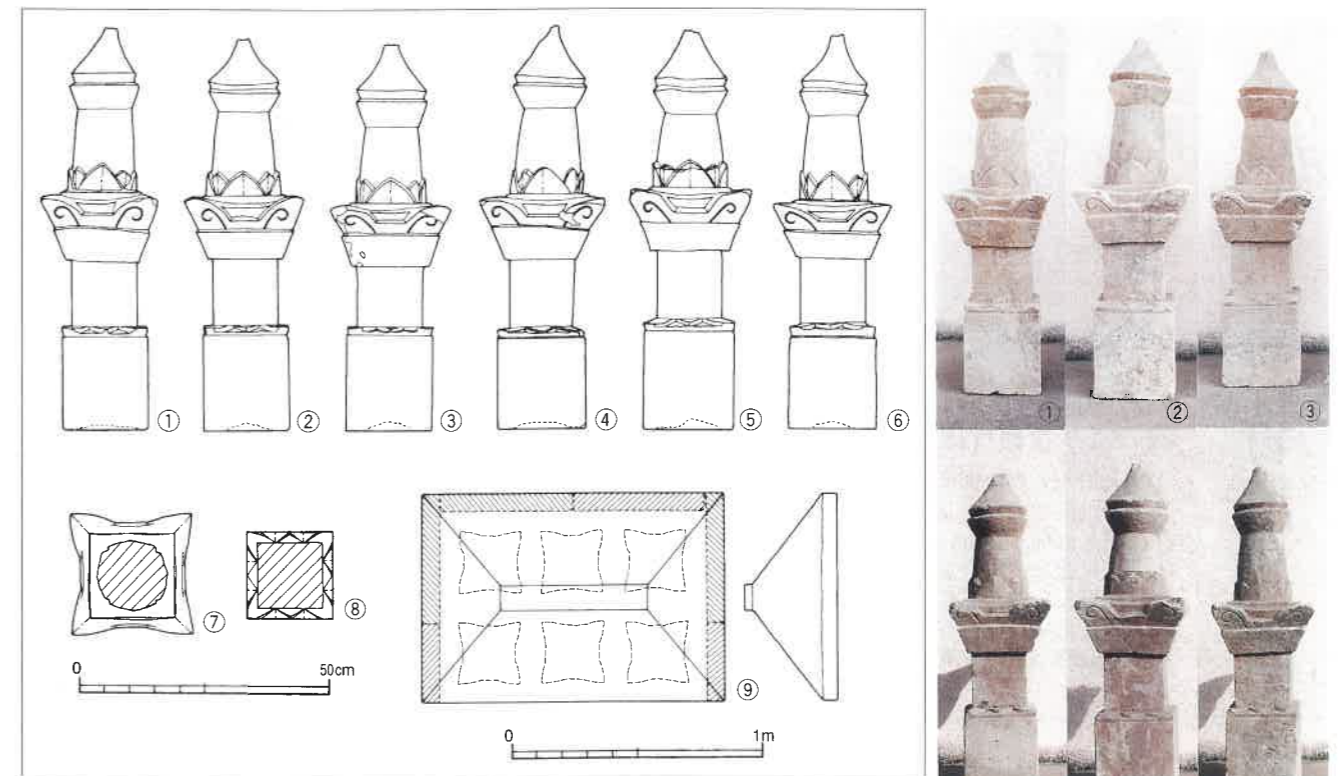
▲大社神光寺旧跡と石見銀山遺跡位置図

化財となる(1)。

神光寺は同町杵築南に現存する曹洞宗寺院である。はじめ弥山西奥の坊床というところにあったが、天正年中(1573～92)豪雨災害のために伽藍が崩壊、当地に移転再建され、さらに慶安元年(1648)再び豪雨災害に遭い全てが流出したため、現在地に再建した(2)。

3 一石宝篋印塔の概要

6基とも基礎、塔身、笠部、相輪部をすべて一石で作る。ほぼ同寸大の規格化された造りで、総高78cm、基礎幅17cm、笠部最大幅24cm前後を測る。銘文は認められない。形状は基礎・塔身は方形で、基礎の上面には平板な反花座(8葉)を彫出する。笠部は上部のみ2段の段形を設け、軒・隅飾り突起とも外傾させ、隅飾りには蕨手状の巻き上げを一對



▲一石宝篋印塔実測図 (①～⑥; S=1/15、⑨; S=1/30、⑦は②の笠部、⑧は③の基礎部平面図、⑨は屋根形状図と石塔配置想定図)

線刻する。相輪部は先尖の宝珠を作り、V字状の溝を施して下位に無蓮弁の請花部を設ける。九輪を表す刻みはなく、最下部に鏝のある請花（4葉+間弁）を彫出する。基礎底部の挟りは浅い。

工具痕として一部に刃幅2.2cmほどの平鑿の痕跡が認められるほか、基礎底部や相輪請花部に尖頭状工具の刺突痕を残している。また、基礎上面の反花部には均等に配された割付痕が残る。石材は凝灰岩質とみられ、温泉津町福光産のいわゆる福光石と考えられる。

収蔵庫には石龕の部材が保存されており、内削りのある120cm×82cmを測る屋根形などから前後に3基ずつ納められていたと推定される。本来一具のものとして同時期に製作された可能性があり、性格は定かでないが供養塔もしくは墓塔として造立されたと考えられる。

本資料はこれまで石見銀山遺跡で実施された石造物の分布調査や悉皆調査で確認された一石宝篋印塔と同じ形態であり、当遺跡の石造物の大半が福光石を用いている点でも共通する(3)。

石見銀山遺跡での一石宝篋印塔はおよそ16世紀末から17世紀後半まで存続すると考えられる。本資料の特徴である全体に縦長傾向にない点や基礎底部の挟りの浅さ、軒・隅飾り突起のやや強めの傾斜角な

どは古様の要素であり、製作年代はこの間にあっても比較的前半代に位置づけるのが適当と考えられ、江戸初期前後とみてはどうかと思う。

4 おわりに

今回紹介した資料は、石見銀山遺跡で通有にみられる福光石製の一石宝篋印塔である。石見銀山と大社とは日本海を通過して結ぶと45kmほどの距離である。今のところこの石塔に関する記録はなく、神光寺の詳細いことも分からない。しかし、少なくとも銀山遺跡と同種のもので大社にあることは注目してよく、石造物の点からも石見銀山と大社が無関係でないことがうかがえる。今後こうした石造物が周辺地域にどのように分布し、どんな歴史的な事情によって存在するのか、丹念に探ってみる必要がある。

注(1)「大社町立猪目洞窟遺物包含層出土遺物収蔵庫」の解説板および『大社町の文化財』（大社町教育委員会、1987.3）を参照した。なお、一括出土遺物の中には元和七年（1621）在銘の一石五輪塔（地輪部）1、組合せ式宝篋印塔（相輪部）1が含まれている。本文では触れなかったが、これらも石見銀山遺跡のものと同様点がある。

(2)『大社町史』下巻（大社町、1995.3）。

(3)『石見銀山遺跡総合調査報告書第3冊一城跡調査・石造物調査・間歩調査編一』（島根県教育委員会ほか、1999.3）、および『石見銀山遺跡石造物調査報告書1-妙正寺跡一』（島根県教育委員会・大田市教育委員会、2001.3）。なお、この一石宝篋印塔は正確には宝珠請花が有蓮弁のものと無蓮弁のものと大きく二種類がある。本資料は後者に属する。

世界遺産暫定リスト登載を記念して、 「世界遺産候補、石見銀山遺跡」シンポジウムを下記の予定で開催します。

催し物・刊行物情報

〔松江会場〕～石見銀山遺跡の素晴らしさを語る～ 7月8日(日) 13:30～16:00 島根県民会館中ホール

講演者；竹内海南江氏（TV「世界ふしぎ発見」リポーター等）

コーディネーター；引野道生氏（山陰中央新報記者）

パネラー；竹内海南江氏、武野要子氏（兵庫大学教授）、中田健一氏（大田市教委）

〔大田会場〕～石見銀山遺跡をどう活かすか～ 8月4日(土) 13:30～16:00 サンレディー大田

講演者；星野知子氏（俳優）

コーディネーター；松江会場に同じ

パネラー；星野知子氏、エンゲルベルト・ヨリッセン氏（京都大学助教授）、

波多野 諭氏（東和建設工業㈱代表取締役）

県教委他では、昨年度までに行った石見銀山遺跡調査等の成果を次のような刊行物にまとめています。

①『大田市大森地区伝統的建造物群保存地区保存事業概報』No52～55、各4頁

②『銀山街道ガイドブックー古道を歩く・銀山街道ー』全24頁

③『石見銀山～いも代官井戸平左衛門の事蹟～』全12頁

④『石見銀山遺跡発掘調査概要11ー於紅ヶ谷地区ー』全72頁

⑤『石見銀山遺跡石造物調査報告書ー妙正寺跡ー』全89頁

⑥『石見銀山遺跡総合調査概報(1)』（リーフレット）全6頁

※⑤は島根県文化財愛護協会（TEL.0852-22-5879）で増刷頒布しています。



仙ノ山に咲くヤマアジサイ

「石見銀山ニュース」を年2回発行します。梅雨のさなか創刊号をお届けします。

石見銀山遺跡ニュース第1号 2001年7月2日発行 編集発行／島根県・大田市・仁摩町・温泉津町教育委員会 TEL0852-22-5649（代表）